

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470101286
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	グループホーム 銀河の詩
訪問調査日	平成21年8月5日
評価確定日	平成21年9月30日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 9月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1470101286
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	グループホーム 銀河の詩
所在地	230-0051 横浜市鶴見区中央3-10-40 (電話) 045-508-2841

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成21年8月5日	評価確定日	平成21年9月30日

【情報提供票より】(平成21年7月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 10月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 3 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 8.2 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	2 階建ての	階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68~75,000 円	その他の経費(月額)	42,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(350,000円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,100 円			

(4) 利用者の概要(7月31日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1		名	要介護2	3	名
要介護3	3	名	要介護4	1	名
要介護5	1	名	要支援2		名
年齢	平均 82.6 歳	最低	76 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みずほ診療所
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体は名を地域に定着させている秀峰会、テーマは「天に星、地に花、人に愛」でこれに沿った確固たる理念があり、これを事務所に掲示するとともに、名札に羅針盤の名で携帯し、パンフレット、名刺にも記載している。秀峰会は事業部制を敷き、グループホームを1つの事業部として情報の流れをスムーズにしている。事業部本部を横浜に終結し、介護サイクルの横の連帯の輪を強化するとともに人材の活用面にも力を入れている。ホームはJR鶴見駅からバスで3つ目、鶴見区役所、鶴見川に近い位置にあり訪問にも便利などである。デイサービスに昼食を託してケアの時間の余裕を生み、実習生を受入れるなどの実践が出来ている。このグループホームはデイサービス、居宅介護、訪問介護、訪問看護ステーションと同じ建物と一緒に同居している。施設長は各機能のコラボレーションに熱心であり、各機能の多機能性が有機的に発揮され、相乗効果でよい施設運営が為されている。昨年の4月からはデイサービスに認知症デイサービスが追加され、今後グループホームとのコラボに期待が持てる。今年の夏祭りは施設全体で行い大盛況で、近隣との一体感、各機能の一体感が深まり地域行事として定着しそうだ。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議を年4回コンスタントに開催出来るための取組みとして、施設のイベントを活用した「一体感」を考えた。この施設の夏祭りは各機能の一体で実施する規模の大きい、インパクトのあるものであるため、運営推進会議のメンバー全員を招待した。夏祭りはご家族、ご近所も参加しており、自治会長経由で子ども会の有志の参加も実現し、民生委員の方のご協力でフラダンスの方がボランティアで盛り上げて頂き成功裏に修了した。これを機に運営推進会議メンバーとの一体感も醸成出来た。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価も全職員で自己評価に取り組んだ。法人内のグループホーム長会議において、勉強会を実施している。事業所としては、研修等外部評価を取り上げた意義を伝えると共に改善点も考えてもらっている。改善点、プロセスでの気付き、指摘事項等については計画を立て改善に取り組むことにしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議については、前述の如く、開催しやすい下地作りに取り組んだ。日程については地域包括支援センターが休みの第2日曜日を避け、第3日曜日に概ね定めた。メンバーは自治会長、老人会長、民生委員、利用者さん及びご家族、ホーム関係者でオブザーバーとして地域包括支援センターの方である。民生委員は4名メンバーであるが熱心に全員参加してくれている。施設長は必ず参加、デイの所長も都合がつけば極力参加してくれている。テーマはメンバーが考えて持ち寄ってくれている。会議で老人会の七夕会に男手が欲しいとの話しがあり人を出したりする関係も出来た。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族に対しては担当者から毎月の近況報告をお届けしている。ご家族には契約時に苦情窓口の話しや看取りについての考え方を充分説明し同意を得ている。実際の看取りに近づいた時には医師を交えてご家族とホームの3者で充分話し合い方向を決めることにしている。家族会は懇親会的な形で年3回実施している。(1回は夏祭り併催)医療連携体制に関してはグループ内の診療所と契約し一層の強化が図れた。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会老人会については行事を教えて頂き参加するようにしている。施設をあげての夏祭りは大盛況で、昨年は100名余、今年はもっと多く、近隣との一体感、各機能の一体感が深まり地域行事として定着しそうだ。小・中学校との交流などは従来通り継続し、中学生の体験学習を受け入れ、中学生の卒業式にはご招待があった。ボランティアでは傾聴の方1名は定着して来て頂けそうである。歌、フラダンス、三味線などはデイと共同で受け入れ楽しませてもらっている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念では「連帯の輪を無限に広げて行く」とある。地域社会との交流を通じてあらゆる人が支えあって共に生きる地域連帯の実現を目指している。銀河でも地域行事はいろいろ参加しているが、「社会性」を大事にしている。		今後も継続して実施していく。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念が書かれている「羅針盤」は常に名札に入れて身につけ、朝礼でも読み合わせを実施している。カンファレンスの中でも、理念に添ったケアであるかどうかと話しあっている。	○	毎日唱和し、全職員が法人理念を理解し、自分の言葉で伝えられるようになることを目標にして取り組んでいく。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、町内会・老人会主催の行事に参加、地域の方々と交流を進めている。事業所で行う夏祭りには、自治会、老人会、近隣の方も招待している。	○	近隣の方を対象とした講座などの開催を企画して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人内のグループホーム長会議において、勉強会を実施している。事業所としては、研修等で外部評価を取り上げ意義を伝えると共に改善点も考えてもらっている。	○	全職員で改善に取り組む。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も推進委員のかたの協力の下順調に開催をしております。グループホームの中だけは孤立してしまいがちですが、地域の情報をいろいろといただけたり、役立っています。		今後も継続して実施していく。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の高齢担当の方は、ご利用者を紹介して頂いたり、ご利用者様を通しておつきあいがある。		今後も継続して実施していく。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ご家族へは担当者から、近況報告のお手紙を出しており、お預かりをしているお小遣いの収支と一緒に報告している。その他、状態に変化があるときなどは、その都度報告をしている。		今後も継続して実施していく。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、重要事項説明書の中で、意見、苦情窓口の説明をしている。ホーム内にも苦情窓口は掲示してある。家族会の中では、いろいろな意見交換している。	○	家族会の充実させ、何でも言い合う関係をつくって行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は、日頃より、チームケアで応援、協力体制ができていますので、急な異動でもある程度のダメージで抑えられる部分もある。	○	離職を最小限に抑えるよう努める。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、新人研修、管理者研修、中堅職員研修など、様々な研修が開催され、参加している。必要と思われる外部研修にも参加している。認知症実践者研修を全職員が受講しているが、今後は準職員も受講させて行く。	○	内部研修の充実。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホームの連絡会の相互研修に参加したり、ブロック会に参加する他、区内グループホームの管理者とは、相談にのっていただいたり、連絡を取り合い、訪問させていただき、意見交換をしている。	○	鶴見区内のグループホームの交流を深めて行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前は、本人に見学に来ていただき、本人の納得した上での入所が理想と考えている。納得されないときは、体験していただくなど、柔軟に対応している。	○	ショートや、通所なども検討して行きたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者はたとえ認知症であっても、人生の大先輩として尊敬の念を忘れずに接し、共に支えあう関係づくりを心がけている。		今後も継続して実施していく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望は、行動・言動から推測したり、家族に相談をしたり、出来る限り希望をかなえられるようにしている。		今後も継続して実施していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	解決しなければいけない問題があれば、カンファレンスで解決策を話し合い、ケアプランにのせて、家族にもその都度、意見を聞くようにしている。	○	アセスメント、介護計画の見直しを全職員で取り組む。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月の期間の中で変更があれば、家族に相談をして変更することがある。緊急の場合は事後報告ということもある。	○	現状に即した、本人が望むプラン作りに努めて行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスの催しものに参加したり、居宅のケアマネージャーに介護保険について指導をうけたり、訪問看護の看護師に健康管理の他、医療的な部分で指導をうけたり、併設の事業所ならではの取り組みが出来ている。		今後も継続して実施していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療は法人内の診療所のかかりつけ内科医が月2回往診しているが、耳鼻科、眼科、皮膚科などの専門医は必要に応じて、かかりつけ医に紹介状をお願いし、ご家族と相談をしながら受診をするようにしている。		今後も継続して実施していく。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携をスタートするときは、ご家族様には終末期に関する指針を説明して同意をいただいている。	○	ご利用者全員の終末期について、話しあいをして行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけはどんな時でも、本人の尊厳を損なわないようにしている。記録等の個人情報の取り扱いは守秘義務の徹底に努めている		今後も継続して実施していく。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決めていたことがあったとしても、それをご利用者に押し付けることはしない。希望があればそれを優先し柔軟に対応をしている。		今後も継続して実施していく。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には、ご利用者様の要望も入れるようにしている。時には、お好み焼きや、なべなど皆で賑やかに食事をすることもある。食事の準備はもちろん片付けもいっしょにしている。		今後も継続して実施していく。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	全員が毎日入浴することは無理なので、入浴日、時間はある程度は、決めています。希望があれば続けて入ったりすることもありますし、時間帯も、出来る限り、希望に添うようにはしている。		今後も継続して実施していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントなどから、得意なこと、できることを見極め、一人ひとりが主役となれるように、役割を決めてやらせている。写真が趣味だった方には、外出の際カメラマンになっていただくなど、趣味を活かした活動を支援している。		今後も継続して実施していく。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望があれば、買物や散歩に行ったり、外出が億劫になっている方でも、外出先の検討や、声かけの方法などを変えたりと、出来る限り、外に連れ出し、ホーム以外の人と関わったり、刺激のある生活が送れるように支援している。		今後も継続して実施していく。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠をしないケアを始めて2年経つが、玄関にはセンサーを設置するだけで対応している。開所からここに至るまでは時間はかかったが、今は、職員間では、施錠をしないことが普通になってきており、声かけ、見守りもスムーズに行われている。		今後も継続して実施していく。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議で、地域の方には協力をお願いしている。災害時の非難方法については消防署にも相談している。	○	近隣の方との防災訓練の実施も検討して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食記録に残し、少ない人は他のもので補ったり、体調にあわせて、要望があればお粥にしたり、嗜好は大事にしている。水分摂取には特に注意をし、冷たいお茶、温かいお茶は、手の届くところにおいて、随時摂っていただけるようにしている。口渇の訴えのない方にも、10時、3時の他、入浴後、外出帰宅後、夜間でも適宜摂っていただくようにしている。		今後も継続して実施していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同のフロアーには、遮光のためブラインドをつけたり、季節感を感じていただけるよう、季節の花を飾ったり、壁のかざりも季節によって変えるようにしている。	○	今後も居心地の良い環境づくりをして行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の向きによって、遮光に気をつけたり、室温も一人ひとりにあわせて調節をするようにしている。共同のフロアーには温度・湿度計を準備、冬場は空気清浄機つきの加湿器を使ったり、健康管理に注意をしている。	○	ご利用者が楽しみになるような菜園づくりを進める。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム 銀河の詩
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央3-10-40
記入者名 (管理者)	徳脇 博美
記入日	平成 21年 7月 30日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念では「連帯の輪を無限に広げて行く」とあります。地域社会との交流を通じてあらゆる人が支えあって共に生きる地域連帯の実現を目指しています。銀河でも地域行事はいろいろ参加させていただいていますが、「社会性」を大事にしています。		今後も継続して実施していく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念が書かれている「羅針盤」は常に名札に入れて身につけ、朝礼でも読み合わせを実施しています。カンファレンスの中でも、理念に添ったケアであるかどうかと話しあっている。	○	毎日唱和し、全職員が法人理念を理解し、自分の言葉で伝えられるようになる。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には、契約時はもちろん、家族会や面会時など、機会があれば、話しをしている。地域交流が始まったばかりですが、運営推進会議のほか、総会や地域の行事など、機会があるときには、話しをしている。		今後も継続して実施していく。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣のマンションの方は、昨年夏祭りに大勢来ていただきましたが、犬の散歩の時に声をかけあうなど、日常的なおつきあいができるようになってきている。		今後も継続して実施していく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、町内会・老人会主催の行事に参加、地域の方々と交流をさせていただいている。事業所で行う夏祭りには、自治会、老人会、近隣の方も招待している。	○	近隣の方を対象とした講座などを開催する。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の議題にもとりあげて、何かできることはないかと相談をしている。災害時には、建物を地域の独居の方などの非難場所などに使って頂くよう検討している。鶴見区社共にもその意向を打診している。	○	作品展示会の開催。
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人内のグループホーム長会議において、勉強会を実施している。事業所としては、研修等で外部評価を取り上げ意義を伝えると共に改善点も考えてもらっている。	○	全職員で改善に取り組む。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も推進委員のかたの協力の下順調に開催しております。グループホームの中だけは孤立してしまいがちですが、地域の情報をいろいろといただいたり、役立てています。		今後も継続して実施していく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の高齢担当の方は、ご利用者を紹介して頂いたり、ご利用者様を通しておつきあいがある。		今後も継続して実施していく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今年度は10月の内部研修に「成年後見制度について」を予定しています。必要のご利用者様は、関係者と話し合いを重ね、あんしんセンターを利用する方向で進んでいる。	○	あんしんセンター利用の支援
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の管理者対象の研修で学ぶ機会がありますが、内部研修でもとりあげて、全職員で虐待・身体拘束防止に努めている。		今後も継続して実施していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はもちろん、退所の際も十分な話し合いを持つようにしている。		今後も継続して実施していく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に機会を設けては無いが、管理者が中心となり、ご利用者様の要望は取り入れるようにしている。		今後も継続して実施していく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ご家族へは担当者から、近況報告のお手紙を出しており、お預かりをしているお小遣いの収支と一緒に報告している。その他、状態に変化があるときなどは、その都度報告をしている。		今後も継続して実施していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、重要事項説明書の中で、意見、苦情窓口の説明をしている。ホーム内にも苦情窓口は掲示してあります。家族会の中では、いろいろな意見交換している。	○	家族会の充実させ、何でも言い合う関係をつくっていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からは、年二回文書で意見や要望を提出する機会があるほか、法人内では、改善提案の募集があり、いろいろな提案が出され、取り入れられている。		今後も継続して実施していく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要に応じて勤務の調整をしている。今回初めて看取りケアをするなかでも、夜間帯、特に深夜は職員二人の体制を試験的に実施してみた。		今後も継続して実施していく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は、日頃より、応援、協力体制ができていますので、急な異動でもある程度のダメージで抑えられる部分もある。	○	離職を最小限に抑える。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
○職員を育てる取り組み		法人内で、新入研修、管理者研修、中堅職員研修など		

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、新人研修、管理者研修、中堅職員研修など、様々な研修が開催され、参加している。必要と思われる外部研修にも参加している。認知症実践者研修を全職員が受講しているが、今後は準職員も受講していただく。	○	内部研修の充実。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホームの連絡会の相互研修に参加したり、ブロック会に参加する他、区内グループホームの管理者とは、相談にのっていただいたり、連絡を取り合い、訪問させていただき、意見交換をしている。	○	鶴見区内のグループホームの交流を深めていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	「自分達の健康は自分達の手で」と、今年度、安全衛生委員を銀河の詩事業所に設置し、訪問看護ステーションの看護師が中心となり、職員の健康管理、メンタル的な部分もサポートする体制ができてきた。		今後も継続して実施していく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に2回、各職員と面接を行い個々の実績を確認すると共に、目標設定を行っている。		今後も継続して実施していく。

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学や相談の際、ご家族からはもちろん、本人が来られれば本人から良く話を聞くようにしている。		今後も継続して実施していく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に来られるのは圧倒的に家族が多いが、良く話を聞き取り、何が問題となっているか見極める。		今後も継続して実施していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要があれば、併設の他事業所ならば、すぐに連絡をとる。特養や有料老人ホームなど聞かれることがありますが、分かる範囲内で情報は提供はするようにしている。		今後も継続して実施していく。

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前は、本人に見学に来ていただき、本人の納得した上での入所が理想と考えています。納得されないときは、体験していただくなど、柔軟に対応している。	○	ショートや、通所なども検討していきたい。
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用様はたとえ認知症であっても、人生の大先輩として尊敬の念を忘れずに接し、共に支えあう関係づくりを心がけている。		今後も継続して実施していく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	認知症のケアの中では、家族の力は大きな力であり、どんなことでも話し合い、協力が得られるよう、相談はしている。		今後も継続して実施していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族関係もご利用者さまによって様々です。ご本人と家族関係がより良くなるよう支援を、心がけている。		今後も継続して実施していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所したからといって、それまでの生活を変える必要が無いことは、ご家族にも、ことあるごとにお話しをしています。以前から通っていたカラオケ教室に続けて通っていただいたケースもありますが、お友達で気軽に寄ってくださる方もいます。		今後も継続して実施していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用様の相性を見極め、相互に良い関係ができるように、間に入ったり、関係作りを支援している。		今後も継続して実施していく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も、ご家族から相談があればうかがいます。又、ご利用様を退所先に訪問することもあります。		今後も継続して実施していく。

1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望は、行動・言動から推測したり、家族に相談をしたり、出来る限り希望をかなえられるようにしている。	今後も継続して実施していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントの他、面会など、機会があれば、家族や知人ともコミュニケーションをとり、情報収集に努めている。	今後も継続して実施していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご利用者様の変化、気づきはどんなことでも記録に残し、申し送り等で伝えるようにしている。	今後も継続して実施していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	解決しなければいけない問題があれば、カンファレンスで解決策を話し合い、ケアプランにのせて、家族にもその都度、意見を聞くようにしている。	○ アセスメント、介護計画の見直しを全職員で取り組む。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月の期間の中で変更があれば、家族に相談をして変更することがある。緊急の場合は事後報告ということもあります。	○ 現状に即した、本人が望むプラン作り。
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印) 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ケアの実践はケース記録帳に記録し、情報を共有しているが。	今後も継続して実施していく。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ディサービスの催しものに参加させていただいたり、居宅のケアマネジャーに介護保険について指導をうけたり、訪問看護の看護師に健康管理の他、医療的な部分で指導をうけたり、併設の事業所ならではの取り組みが出来ている。		今後も継続して実施していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣の中学校とは、運動会に招待頂いたり、交流がある。入所以前から、通っているカラオケ教室に、通い続けているご利用者もおられます。地域ケアプラの講座にも参加している。		今後も継続して実施していく
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ケアプラのケアマネジャーの方はご利用者を紹介していただいたり、おつきあいをさせていただいている。、ケアプラ主催の教室などには参加させていただいている。		今後も継続して実施していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターの職員は運営推進会議には、オブザーバーとして、参加は頂いていますが、協働するほど関係ができていない。		今後も継続して実施していく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療は法人内の診療所の内科医に月に2回お願いしていますが、耳鼻科、眼科、皮膚科などの専門医は必要に応じて、紹介状をお願いし、ご家族と相談しながら受診をするようにしています。		今後も継続して実施していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣の精神科医に訪問に来ていただいたケースがありますが、その後は職員が相談に行ったり、今後は他のご利用者も診ていただけたらと考えています。		今後も継続して実施していく。
	○看護職との協働	今年度より医療連携訪問看護ステーションを、銀河の時から		

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	〒十段より医療連携訪問看護ヘルソンを、取組の時から訪問診療をお願いしている、診療所の看護師に変更してませんが、連携がとれてきていると感じます。また、なじみのある銀河の詩訪問看護ステーションの看護師にもご利用者様のことを相談することがあります。		今後も継続して実施していく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際は出来る限り、早期に退院できるよう、病院関係者、主治医、医療連携室の相談員と話し合いを持っています。		今後も継続して実施していく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携をスタートするときは、ご家族様には終末期に関する指針を説明して同意をいただいている。	○	ご利用者様全員の終末期について、話しあいをしていく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族の要望があり、今回初めて看取りを実施することができました。訪問診療医、看護師、ご家族様と連携を取り合い、チームとして動くことが出来たと実感しています。	○	看取りケアのマニュアル作り。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居によるダメージを防ぐ為、事前面談は細かいところまで伝えるようにしている。デイサービス利用の方は交流を持つようにしている。		今後も継続して実施していく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけはどんな時でも、本人の尊厳を損なわないようにしている。記録等の個人情報の取扱いは守秘義務の徹底に努めている		今後も継続して実施していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	発語は少なくなったり、ご自分の意見を伝えられなくなる方もいますが、能力にあわせた声かけをし、自ら決定できるように働きかけるようにしている。		今後も継続して実施していく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決めていたことがあったとしても、それをご利用者に押し付けることはしない。希望があればそれを優先し柔軟に対応している。		今後も継続して実施していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問美容も利用していますが、お元気な方は鶴見駅のほうまで行っている方もいます。	○	メイクアップセラピーをとり入れる。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には、ご利用者様の要望も入れるようにしている。時には、お好み焼きや、なべなど皆で賑やかに食事をすることもある。食事の準備はもちろん片付けもいっしょにしている。		今後も継続して実施していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好は大事にしています。、買物に行った時は個別におやつを買ったり、タバコの希望がある方は、場所や時間はある程度きめていますが、吸ってもらっている。		今後も継続して実施していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄は記録に残し、排泄パターンを把握し、出来る限りトイレでの排泄を支援している。		今後も継続して実施していく。
	○入浴を楽しむことができる支援	全員が毎朝入浴することは無理なので、入浴日 時間決めて		

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	全員が毎日入浴することは無理なので、入浴日、時間はめる程度は、決めています。希望があれば続けて入ったりすることもありますし、時間帯も、出来る限り、希望に添うようにはしている。		今後も継続して実施していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	アセスメントから、朝ゆっくり食事をする人は、ゆっくり休んでいただいたり、夜早くねるひとれば、夜はゆっくりテレビをみて寛ぎたい人、その人に合わせた対応をしている。		今後も継続して実施していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントなどから、得意なこと、できることを見極め、一人ひとりが主役となれるように、役割を決めてやらせてもらっています。写真が趣味だった方がいますが、外出の際カメラマンになっていただくなど、趣味を活かした活動を支援しています。		今後も継続して実施していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できることは、出来る限り、続けていただくよう支援することが大事だと考えています。金銭管理の出来る人は、出来るだけその力を持ち続けて欲しいので、自分の財布をもち、自分で買物をする支援をしています。		今後も継続して実施していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望があれば、買物や散歩に行ったり、外出が億劫になっている方でも、外出先の検討や、声かけの方法などを変えたりと、出来る限り、外に連れ出し、ホーム以外の人と関わったり、刺激のある生活が送れるように支援しています。		今後も継続して実施していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとり行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行楽の他、外出の機会は多く作るようにしていますが、個別に行きたい所に出かけよう!という企画もしています。今年度も奥様のお墓参りに行ってこられた方がいます。これからは野球観戦に行く予定があります。		今後も継続して実施していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は家族によっては、断りを受けたこともあるので、了解の得られている方に限り支援しています。毎年賀状は出していますが、書くことが出来る方には、本人に書いてもらっています。		今後も継続して実施していく。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や、知人の面会時には、食事を準備して、ゆっくり食事をしながら楽しい時間を過ごしていただけるように		今後も継続して実施していく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロの手引きはての届くところにおき、何時でも見ていただくようにしている。内部研修でも6月にはとりあげ、全職員で再確認している。		今後も継続して実施していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠をしないケアを始めて2年経ちますが、玄関にはセンサーを設置するだけで対応しています。開所からここに至るまでは時間はかかりましたが、今は、職員間では、施錠をしないことが普通になってきており、声かけ、見守りもスムーズに行われている。		今後も継続して実施していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安全に生活をしていただくのは一番ですが、プライバシーは大事にするケアは心がけている。		今後も継続して実施していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要、危険と思われるものをすぐに撤去したり、隠したりするのではなく、一人ひとりの能力や、状態など、いろいろな角度から考えるよう、話し合いをもつようにしている。		今後も継続して実施していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態は分かるようにしている。状態の変化は記録に残し申し送りで確実に伝える。体調不良時(転倒、痙攣、発熱・その他)の対応マニュアルを作っている。		今後も継続して実施していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の方による、心配蘇生法・AEDの研修を今年初めて実施(7/22)、今後は定期的の実施していく。	○	近隣の方にも希望があれば参加していただきたい。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議で、地域の方には協力をお願いしている。災害時の非難方法については消防署にも相談している。	○	近隣の方との防災訓練の実施。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクについては、職員間で安全にその方らしく生活を送る為の方策を話し合い、ご家族に伝えている。		今後も継続して実施していく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化の早期発見のため、バイタルは毎朝測定、気になる方は、午後も測定している。その他気づいたこと、変化は医療ファイルに記録、情報の共有の他、訪問看護、訪問診療のときにも全職員が相談できるようにしている。		今後も継続して実施していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の医療ファイル、薬ファイルは見やすいように整理し、誰もが、その方の疾病と薬と合わせてすぐに見られるようにしています。		今後も継続して実施していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	出来る限り自然排便と考えていますが、加齢に伴い下剤に頼らなければ難しくなっています。玄米食を食べることで、自然排便につらがないか、3ヶ月程試験的に試しました。	○	自然排便に繋がる食物をさがし、下剤を減らす。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは毎食後に実施している。定期的に歯科検診を実施している。		今後も継続して実施していく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食記録に残し、少ない人は他のもので補ったり、体調にあわせて、要望があればお粥にしたり、嗜好は大事にしている。水分摂取には特に注意をし、冷たいお茶、温かいお茶は、手の届くところにおいて、随時摂っていただけるようにしている。口渇の訴えない方にも、10時、3時の他、入浴後、外出帰宅後、夜間でも適宜摂っていただくようにし		今後も継続して実施していく。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入所時には、感染症の検査結果提出してもらっている。感染症のマニュアルは法人として整備されている。インフルエンザの予防接種はご利用者様は毎年、実施している。		今後も継続して実施していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の衛生管理は、調理道具の毎日のハイター消毒、食材は買い置きをせずに毎日買物に行き、新鮮な物を使用するようにしている。冷蔵庫掃除を一週間一度、曜日をきめてしていますが、その時に古いものは処分するようにしている。		今後も継続して実施していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには、木やお花を植え、近隣のかたが、立ち止まって見ていただけるように、又暖かさを感じられようと心掛けている。		今後も継続して実施していく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同のフロアーには、遮光のためブラインドをつけたり、季節感を感じていただけるよう、季節の花を飾ったり、壁のかざりも季節によって変えるようにしている。	○	今後も居心地の良い環境づくりをしていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同の場は、食堂兼リビングだけなので、お一人お一人の居場所はなかなか難しいですが、気の合うもの同士座りあったり、孤立しないように考えている。ベランダもとても良い空間になっている。		今後も継続して実施していく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の向きによって、遮光に気をつけたり、室温も一人ひとりにあわせて調節をするようにしている。共同のフロアーには温度・湿度計を準備、冬場は空気清浄機つきの加湿器を使ったり、健康管理に注意をしている。	○	ご利用者が楽しみになるような菜園づくり。
	○換気・空調の配慮	居室の向きによって、遮光に気をつけたり、室温も一人ひとり		

84	<p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>居室の向きによつて、遮光に気をつけたり、至温も一人ひとりにあわせて調節をするようにしている。共同のフロアには温度・湿度計を準備、冬場は空気清浄機つきの加湿器を使ったり、健康管理に注意をしている。</p>	<p>今後も継続して実施していく。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ、浴室などは手すりを付けたり、ハード面で、補えない部分は、歩行器や、移乗のが安楽にできるよう、ベッド柵などの福祉用具を活用している。</p>	<p>今後も継続して実施していく。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>共同の場では、トイレマークや日付カレンダー、食器棚にも「コップ、湯のみ」と分かるように、貼り付けている。お一人お一人にも、タンスの整理しやすように、「下着、タオル」と貼り付けたり、出来ることをやっていただく工夫をしている。</p>	<p>今後も継続して実施していく。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダには四季折々の花や野菜を植えて、ご利用者様が、花の水遣りや、摘んで花瓶に飾ることが、日課となっています。当ホームは二階なので、簡単に外に出ることが出来ないのですが、ベランダはすぐに出られ、喫煙、歩行練習、天気の良い日はベランダでお茶タイムを、するのが皆さんの楽しみとなっている。</p>	<p>今後も継続して実施していく。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

小学校や中学校との交流も盛んになってきて、卒業式に招待していただいたり、地域交流も少しずつ、形になってきたように実感しています。医療連携をスターとさせて2年経過、グループホームで最後を迎えさせてあげたいというご家族の希望通り、お一人、看取りを終えることができました。訪問医、看護師、ご家族の協力も良かったが、何よりも良かったことは、初めは不安だけしか訴えなかった職員も一丸になって取り組むことができましたことです。